

令和元年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価								総合評価	今後の事業方針		
					必要性(30)			達成度(30)			効率性(30)				その他(10)	
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか				③負担はないか
(1) 活動	1	いわて親子・家庭フォーラム	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを開催。 (1) 子ども・家庭・地域に関する交流セミナー とどけ！いわて ヒューマンメッセージ2019 ※盛岡地方務局との共催イベントとして実施 ・期日・会場：令和元年11月10日(日) アイーナ7階 小田島組☆ほ〜る ・参加者：人権擁護委員、青少年育成関係者等 100名 ・内容：作文コンテスト表彰式、啓発イベント(ミニコンサート、書道パフォーマンス) (2) いわて親子フェスティバル ※県民活動交流センターの協力を得て実施。 ・期日・会場：令和元年10月14日(月・祝) ・親子等 5,831名、青年ボランティア 117名、出演者・協力者 120名 ・内容：工作教室・ショー、親子クッキング、体験コーナー ※ 青少年ボランティアによる企画会議(5回)及び実行委員会(3回)の開催など事業を通じた研修や交流を行った。	B(20) ①:10 ②:10 ③:0 盛岡地方務局との共催イベントとして実施。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】100名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(365千円)		B(80)	県民のニーズに対応した内容により継続して実施する。						
				A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		A(90)	アイーナ入居団体等と連携・協働して、引き続き親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。							
	2	青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	青少年のインターネットやスマートフォン等の利用が増え、有害情報で被害を受けたり、ネット上の誹謗、中傷、いじめなど青少年の健全育成上様々な課題が生じていることから、情報機器の正しい利用について地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進する。	(1) 情報メディア対応力養成講座(4地域) 県北地区(久慈市11/11)、県南地区(奥州市11/17)、県央地区(滝沢市11/22)、沿岸地区(釜石市11/27) 合計(4回)172名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】170名 【実績】172名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2千円)		A(90)	継続して実施することとした。 有害情報から青少年を守るための啓発活動のほか、ニーズに対応した内容により実施していきたい。							
				(2) 情報メディア「出前」講座(20回) ※2月末現在 小学校、中学校、高等学校、PTA、公民館等 延べ1,767名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】出前5回 【実績】出前20回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)		A(90)								
				(3) 情報メディア対応指導者養成研修会(情報メディア対応サポーター育成セミナー) 令和元年7月20日(土) 講話・実機体験、グループワーク 参加者：PTA、教育関係者、青少年育成団体等 10名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】30名 【実績】15名	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(20千円)		B(80)								
		(4) 情報メディア対応機関連絡会議 最新のネット上の課題、相互の連携の在り方等についての協議・意見交換等 令和元年5月21日(月)岩手県庁 総合教育センター、少年センター等 9名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】1回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(0円)		A(90)										
(2) 交流	3	いわて希望塾	市町村の枠を越えた交流活動や「本格復興」についての意見交換などからの学びにより、自らと地域を見つめ直し、積極的に岩手の地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	中学生を対象とし、集合研修(合宿研修)を通じ、積極性、協調性を養成するとともに、地域づくり活動に関わるプログラムを各市町村と連携して実施することにより、継続的な地域づくり活動への参画を促した。 令和元年11月2日(土)～4日(月・祝)〈2泊3日〉陸中海岸青少年の家(山田町) 参加者：塾生(中学生)122名・青年サポーター8名 内容：コース別学習(宮古市・山田町・釜石市)、②テーマ別ディスカッション「未来へのヒント部屋」、③ワークショップ・グループディスカッション、④塾長メッセージ(岩手県知事)、塾長との対話、⑤ふじボンミニトークショー・対話、⑥未来への宣言(全体発表)・ふりかえり	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】塾生120名、青年サポーター20名 【実績】塾生122名、青年サポーター8名	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(2,141千円)		B(80)	継続して実施することとした。 また、ボランティア養成も兼ね、引き続き県内5大学、専門学生等に対して、青年サポーターへの参加を呼び掛ける。							

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針
					必要性(30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度(30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性(30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他(10)		
(3) 情報	4	青少年ボランティア活動の促進	いわて親子フェスティバル等のセンター事業へのボランティア参加者が、事業の企画段階から参画するとともに、相互に交流する機会を設けることにより、ボランティア活動の活発化を促進する。	期日：通年 内容：観武が原祭(12名)、いわて希望塾サポーター(8名)の事前打合せ(2回)、いわて親子フェスティバルのボランティア(117名)による企画会議(6回)及び実行委員会(3回)の開催など、事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設けた。 ・参加者：県内に在住する概ね16歳～30歳の青少年、登録ボランティア(148名) 延べ 566名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】500名 【実績】566名参加	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(28千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 引き続き募集の働きかけを強めるとともに、ボランティア相互のネットワーク形成など、内容を充実させて実施することとしたい。
	5	青少年健全育成広報事業	青少年健全育成の県民運動を推進するため、県民に対する青少年健全育成の意識啓発を図る。	青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取り組み等に係る様々な情報について、広報活動を行った。 ① 広報紙「青少年いわて」(各号2,200部、10月、3月) 広報紙「アイナインフォメーション」12回(毎月1回) ② インターネットによる広報(http://www.aiina.jp/seishounen/) アクセス数:46,598件、情報発信日数:283日、ツイッターフォロワー719名、フェイスブック友達142名(令和2年2月末日現在) ③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用 電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回(毎月1回) ④ 啓発活動 いわて家庭の日・相談室PRカード配布300部 ⑤「わたしの主張岩手県大会」発表文集 1,000部(配布先:市町村教育委員会、全中学校等) ⑥「いわて希望塾」事業報告書 300部(配布先:市町村教育委員会、参加中学校等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】ホームページアクセス件数:35,000件、情報発信日数:180日 【実績(2月末日現在)】ホームページアクセス件数:46,598件、情報発信日数:283日	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(190千円)		A(90)	ホームページの内容を充実させ、継続して実施することとしたい。
(4) 相談	6	相談事業	青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。	非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。 電話相談:564件、面接相談:12件、メール相談:9件 合計585件(令和2年2月末日現在) 相談時間 9:00～16:00(月・木のみ9:00～20:00)	(事業実施中) ①:10 ②:10 ③:10	①:10 ②:10 ③:10 【目標値】相談数360件 【実績(2月末日現在)】585件	①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(464千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 引き続き、相談室の周知のため、中・高校へのPRを行うほか、保護者の需要に対応するため、保護者への積極的な周知を図る。
		(2) 青少年相談事例検討会の開催	県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。	相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。 ○第1回 令和元年8月2日(金) アイナ8階 812会議室 講演「子どもへの虐待を生まない地域をつくるために」(岩手県立大学社会福祉学部 准教授 實方 由佳 氏) 参加者:相談機関の相談関係者等85名(岩手県立生涯学習推進センター、県中部保健所、県福祉総合相談センター、宮古市少年センター、幼稚園・小学校教諭等) ○第2回 令和2年1月20日(月) アイナ7階 802会議室 模擬事例検討(コーディネーター:岩手大学人文社会科学部教授 山口浩 氏) 参加者:相談機関の相談関係者等23名(岩手県立総合教育センター、県精神保健福祉センター、県福祉総合相談センター、盛岡市少年センター、もりおか若者サポートステーション等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【実績】108名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 人件費を除く費用(3千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。
(5) 自主事業	活動	7	青少年体験講座	調理など家事を手伝う積極性やマナーを学び、他者を思いやる心や協力することを大切さを養う。	青少年等を対象に親子のふれあい、食、マナー等をテーマとする体験講座「親子料理教室」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。 ○親子料理教室 2月29日(土) アイナ6階調理実習室 参加者:	(中止)				アイーナ入居団体等と連携・協働して、親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針		
					必要性 (30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度 (30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性 (30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他 (10)				
(5) 自主事業	8	青少年ボランティア活動の促進 「すぐに活かせる！こどもの心をつかむわくわくワークショップ」	専門家による実践研修を通じて、豊かなコミュニケーション能力やリーダーシップを養い、子ども・若者への対応能力の向上を図るとともに、若者の主体的活動の促進(ボランティアの育成と活動の活発化の促進)及び将来の青少年育成活動の担い手の育成を図る。	広く子どもとの活動に関心のある方々を対象に、工作やアイスブレイクのポイントを学ぶワークショップを開催。  すぐに活かせる！こどもの心をつかむわくわくワークショップ 令和2年1月13日(月) アイーナ8階812 参加者:保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、ボランティア等 76名 内容:第1部 くぼたまさことによるおとなのための研修会 講師:久保田雅人氏 第2部 こどもの心をひらくコミュニケーション講座 講師:盛岡大学短期大学部幼児教育科助教 及川未希生氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		A(90)	継続して実施することとしたい。 盛岡市以外の地域での事業の開催を検討するほか、ボランティア相互のネットワーク形成など、内容を充実させて実施することとしたい。		
	9	社会生活に困難を有する子ども・若者支援に関する公開講座	社会生活を営む上での困難を有する青少年の現状や支援方法について、専門家による基調講演や関係団体代表等による事例検討会などを内容とする公開講座を開催し、今後における「子ども・若者支援」の推進に係る機運の醸成と県民への啓蒙を図る。	現代の大きな社会的課題である不登校・ひきこもり・ニート等の社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者への支援について、保護者や教育関係者、支援機関関係者等を対象として公開講座を開催した。 ○第1回 8月24日(土) アイーナ 参加者63名 発達障害とペアレントトレーニング 社会福祉法人新生会 みちのく療育園 副施設長 川村 みや子 氏 ○第2回 9月7日(土) アイーナ 参加者 44名 ○第3回 9月21日(月) アイーナ 参加者 42名 ペアレントトレーニング体験講座 NPO法人「紫波さぷり」代表 細川 恵子 氏、臨床心理士 樋渡 朗子 氏 ○第4回 2月18日(火) アイーナ 参加者 107名 発達に特性のある子どもたちの理解と支援 国立大学法人 東京学芸大学 教職大学院教授 藤野 博 氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		A(90)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、機関相互の連携の強化を図る。		
	10	国際理解・協力推進事業(国際交流シンポジウム)	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	内閣府青年国際交流事業の紹介、国際交流事業に参加して感じたことなどを語るフォーラム及び県内青少年との交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。  令和2年3月2日(月) 場 所:岩手大学 内 容:内閣府青年国際交流事業の紹介、グループトーク、交流会	(中止)						A(90)	継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。
交流	11	災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加(売り子等)を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施した。 内容:アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース(アイーナ職員供出物品の販売)を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売 第19回 令和元年6月15日(土)参加者約500名(売上金額 110,229円) 第20回 令和元年10月14日(月)参加者約500名(売上金額 66,179円) ※ なお、バザーの売上金176,408円は、その全額を岩手県災害義援金募集委員会、日本赤十字社に寄附	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		A(90)	継続して実施することとしたい。 売上金額が減少していることから、周知をさらに図る。		
情報	12	青少年関係情報データベース事業	青少年に関わる情報について、様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供を行う。	健全育成、保健福祉、教育、非行防止等の各部門がそれぞれ独自に保有する様々なデータや各種資料等を一括して収集、整理・分類等を行い、ホームページ上にデータベースを構築して、青少年の育成支援に関する情報の総合的な提供した。	(事業実施中)						A(90)	継続して実施することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。